

Q

子どもが学校へ行くのを嫌がるようになってしまいました。無理やり行かせたほうがよいでしょうか。

A
低
中
学
年

「学校に行きたくない」などのお子さんが登校を渋るような言葉を言ってきた場合、聞き流さず、まずは、その言葉をしっかり受け止め、なぜ行きたくないのかよく聞いてあげることが大切です。ただ、小学校低中学年の場合、自分の心の状態や原因をうまく言葉で説明することができない場合があります。

登校を渋る原因として、友達関係、学習、先生に叱られた事などにより学校に対して不安や恐怖を覚えてしまっていることも考えられます。いずれにしてもお子さんの現在の状況について担任の先生に一度相談してみるとよいです。もし担任の先生に対する不安で相談しづらい場合は、教頭先生や校長先生に相談してみてもよいです。相談の中で、学校での様子を保護者が知ったり、お家での様子を学校が知ったりしながら、お子さんの状況を見極め、どこに不安を感じ、どのような支援をすることが必要か話し合っ、学校と保護者が同じ方向でお子さんを支援していくことが大切です。

もし、お腹が痛い、吐きそうなどのように身体症状が出ている場合は、無理やり学校へ連れて行くのではなく、医療機関の受診をお勧めします。

また、低学年では親への依存の度合いが強いのも事実です。放任や過保護が過度になってしまうと問題が生じることがあります。放任が強すぎる場合は、物事の適切な段取りが取れずに失敗経験を繰り返し、意欲が低下してしまい、登校を渋ることもあります。また、過保護が過ぎると、親がいないことへの不安が募り、学校で恐怖心が生まれ、登校を渋ることもあります。お子さまの思いに寄り添った子育てができているか、見直すことも必要になります。

A 思春期

思春期になると、学校生活（学習や友だち関係等）や環境変化（進学や家庭生活等）、心身の変化など、様々な要因があって、学校に通うことがしんどくなってしまうことがあります。

このような場合、何かしらの原因を自覚して学校に行けない場合と、本人にもよくわからないけれど学校に行けない場合があります。また、原因を自覚していても保護者になかなか打ち明けづらく思っている場合もあります。

いずれにしても、まずは、お子さんとよく話をすることが大切です。その時には、お子さんの気持ちに寄り添って、話を聞くことが大切です。

そして、お子さんの現在の状況について、学校に相談してみるとよいです。相談の中で、お家での様子を学校が知ったりしながら、どのような支援をすることが必要か話し合っ、学校と保護者が同じ方向でお子さんを支援していくことが大切です。

また、身体に症状が出ている場合や、人との関わりや学習等に不安がある場合には相談機関に相談してみるのもよいと思います。

不安やストレスが強く、心が疲れている時には、まずは休養が大切です。不登校のお子さんの多くは言葉や行動とは裏腹に学校に行けない自分、保護者の期待に応えられない自分を心の中で責めています。ですので、もう一度自信をつけていくためにも、ポジティブな言葉かけを心がけましょう。また好きなことをやらせたり家のお手伝いなどやらせてみたりするのもよいと思います。

コラム

「言葉かけ②」

できた時に言葉かけするだけでなく、できなくても、努力をしたときに「がんばったね」「やろうとしてくれたことがうれしかったよ」と声かけすることも大切です。

また、私たち大人は成長するにつれて、つい、できることを求めてしまいがちですが、生まれた頃はただいてくれるだけでとてもうれしかったはず。何でもないときでも笑顔で「いてくれるだけでうれしい」と言葉で伝えることも大切です。

